

今週

米国、日銀、新興国

為替レートが急速に円高に振れている。連休中を狙つたような円高の動きで、この原稿をまとめていたる4月の時点では1ドル=106円台になつてゐる。少し前には120円台であつたことを考えれば、短期間に円高になつたものだ。円高は輸出企業の業績にマイナスに響くといふこともあるが、円高と連動して日本の株価は底下傾向にある。

為替レートの変動に経済が振り回されるのは毎度のことなので、大騒ぎする必要はないのかもしれない。それでも、アベノミクスによ

伊藤 元重

学習院大教授（国際経済学）

よりてテフレからの脱却を目標とする重要な時期に、円高の動きがあるのは気になる。

市場関係者は、元々、円高への動きのタイミングをはかつていてはいる。連休中を狙つたような円高の動きで、この原稿をまとめていたる4月の時点では1ドル=106円台になつてゐる。少し前には120円台であつたことを考えれば、短期間に円高になつたものだ。円高は輸出企業の業績にマイナスに響くといふこともあるが、円高と連動して日本の株価は底下傾向にある。

報道でも紹介されていふように、為替レートが円高方向に動くにつかづかとなる動きがいくつかある。一つは米国だ。米国の連邦準備銀行は金利をかなりのペースで引き上げていくと考えられてきたが、これに引き上げのペースが落ちそうだという観測が広がつ

ていて、景気減速、新興国からの資金流出の動きなど、市場は円を安全資産として買ひに来ている。それが円高を促す結果になつていて

急速な円高促す二つの動き

報道でも紹介されていふように、為替レートが円高方向に動くにつかづかとなる動きがいくつかある。一つは米国だ。米国の連邦準備銀行は金利をかなりのペースで

引き上げていくと考えられてきたが、これに引き上げのペース

が落ちそうだという観測が広がつ

ていて、景気減速、新興国からの資金流出の動きなど、市場は円を安全資産として買ひに来ている。それが円高を促す結果になつていて

いる。景気の動きに米国が慎重になってきたのだ。これはドル高の動きに反するものである。「市場関係者にとって、20分以上はすべて長期だ」という。つ

まり、市場関係者は先のことを考え、これまで、日銀による大胆な金融緩和が円安を促してきた。ただし、これまでも政府による為替介入は警戒する

立場だ。今の市場はもだ。その警戒の必要が少ない

連休というタイミングで急速に円高が進んでしまった。

さて、この後の動きはまづいなるが限界に来ているのではないかと

思ふ。しかし、ある為替ディーラー

に次のように言わされたことがある。

「市場関係者にとって、20分

以上はすべて長期だ」という。つ

まり、市場関係者は先のことを見

ていて、日銀の金融政策の効果

に来て、日銀の金融政策の効果

に来て、日銀の